

爪白癬に注意！

厚生連健康管理センターがかわ 保健師 山地 マミンさん

つめはくせん
爪白癬（爪水虫）は、はくせんきん白癬菌という原因菌が爪の中へ侵入して起こります。10人に1人が感染しているほど、身近な病気で

症状

初期症状は、感染した爪の一部が白色または黄色の濁った色に変色します。その後、症状が進むと変色した部分が広がり、爪の厚みが増したり、変形したりしてポロポロと欠けてきます。この時は、爪に痛みやかゆみがないため、多くの人が放置してしまいます。しかし、爪白癬を放置し、さらに症状が進行すると爪の変形が大きくなり、爪先が痛くなったり靴下や靴が履きづらくなったりします。

また、身体のほかの部分に感染することや家族などまわりの人にうつしてしまうこともあります。

治療

治療には、医師が処方する抗真菌薬の内服薬や外用薬が必要です。症状が先端部だけなら、短期間ですみますが、爪全体に症状がある場合は、1年以上かかることもあります。そのため、治療では根気よく続けることが一番大切です。自己判断で治療をやめると治療期間が長引いたり、家族間での感染を引き起こしたりします。

対策

爪に異常を感じたら早めの受診！

1日1回は足を洗いましょー！